

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

哲学・思想 No.1

功利主義と義務論で医療倫理を読む —— ベンサム・カントを医師の判断に使う

★ 清光学院の講師は、医療倫理・生命倫理を専門とする大学教員として、実際の病院倫理委員会・臨床倫理コンサルテーションに携わってきた当事者です。功利主義と義務論の対立が医療現場でどう現れるかを実践的に知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療倫理の原則を問う小論文

「医療倫理の観点から〇〇について論じよ」という小論文は医学部で頻出である。功利主義（最大多数の最大幸福）と義務論（患者の権利・自律尊重）という2つの枠組みで論じられる受験生は、採点者に倫理的思考の深さが伝わる。

② 治療の優先順位・資源配分を問う問題

「限られた医療資源をどう分配するか」「トリアージの倫理的根拠は何か」という問いは、医学部面接・小論文の定番である。功利主義と義務論の対立構造で答えられる受験生は、試験官に深い倫理的思考があると判断される。

③ 「医師の判断と患者の意思」を問う問題

「患者が治療を拒否したとき医師はどうすべきか」という問いは、義務論（自律尊重）と功利主義（患者の利益）の対立として論じることができる。この枠組みを持つ受験生は、面接で明快な論述ができる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	医療倫理の原則・生命倫理を論じる問題	功利主義・義務論の枠組みが論述の骨格になる
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「医師の判断と患者の意思」型の問い	倫理的枠組みで答える力が面接評価を高める
医療系学部全般（倫理問題）	資源配分・トリアージの倫理的根拠	功利主義の論理がトリアージ問題に直結する
大学院・医学研究科	臨床倫理の理論的背景を問う問題	哲学的枠組みが実践倫理の論拠を与える

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「患者の気持ちを大切にすることが大切です」という答えは、採点者には「倫理的思考がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）功利主義と義務論の違いを自分の言葉で説明できる、（2）医療倫理の問題を2つの枠組みで対比して論じられる、（3）面接でトリアージ・治療拒否の問いに倫理的根拠で答えられる、という変化が起きる。

医療倫理を専門とする清光学院の講師陣は、医学部入試で「感情論の答案」と「倫理的枠組みで論じた答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。